

遺伝子定量のイノベーション

ドロップレットデジタルPCR(ddPCR)セミナー 『最新研究におけるdigital PCRの有用性』



日時：2018年7月31日(火)14:00~15:30

会場：霞総合研究棟701号室

演者：バイオ・ラッド ラボラトリーズ株式会社 ライフサイエンス営業部
アプリケーションスペシャリスト 寺田 智子 氏

がん・遺伝子疾患・感染症等の研究において、遺伝子定量は欠かせない技術です。従来はその代表であるリアルタイムPCRが広く用いられてきましたが、近年、これを大幅に超える**高精度・高感度のデータ**を得ることのできる「デジタルPCR」技術が開発されました。

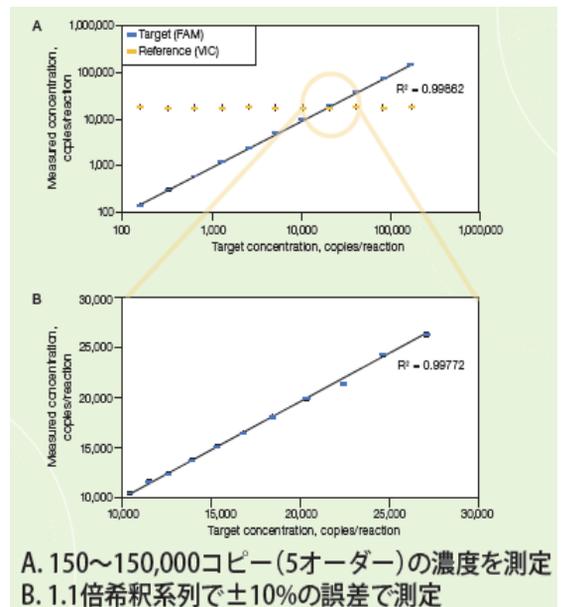
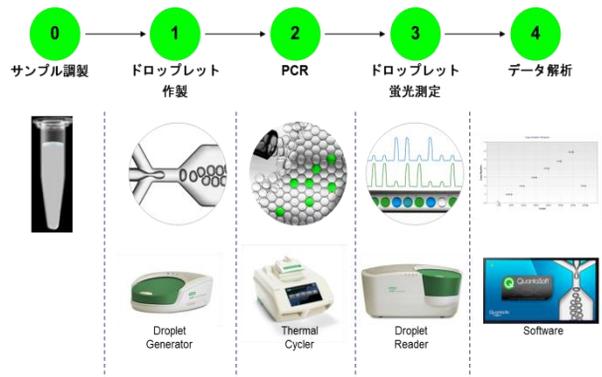
デジタルPCRは、遺伝子発現量の差を高精度に見分け、さらに微量遺伝子の発現量を高感度に定量することが可能です。Bio-Rad QX200 Droplet Digital PCR (ddPCR)システムは、販売開始後6年以上が経過し、幅広い研究分野の数多くのお客様にご利用いただき、発現解析のみならず様々なアプリケーション実績が急速に蓄積されております。

そこで当セミナーでは、QX200 ddPCRに関しまして、

- (1) ddPCRの基礎
- (2) リアルタイムPCRとの違い
- (3) アプリケーション紹介

- ・リキッドバイオプシー
- ・CNV測定
- ・医療への応用例
- ・ウイルスの測定(HCV、HIV)
- ・白血病 微小残存病変のモニタリング
- ・ゲノム編集
- ・シングルセル測定
- ・マルチプレックス測定
- ・NGSライブラリー定量
- ・ドロップレットへの細胞封入
- ・ドロップレットを利用したレアターゲットの増幅
- ・遺伝子導入細胞の生着率解析

などについてご紹介いたします。



主催：広島大学 自然科学研究支援開発センター-生命科学機器分析部
申込先：082-257-1510(内2768/6170) acols@hiroshima-u.ac.jp
申込締切：2018年7月24日(火)